

「平成の遣唐使と和隣競栄」(協同組合通信/山椒弾) 15.02.18

今や順風満帆無敵複数民族国家中国。弾けたバブルで経済失墜単一国家日本。運気次第で、かくなると 80 年代の我が国を追想す。波乗り中国に、驚異的な政治の禅譲劇。二十歳も若返る指導者層の選出は、国を挙げての万全体制。異色首相の行動力に期待し、気がつけば何故かデフレの進行。無策野党では、総選挙後の経済の活性も心もたない。

改革疲れを癒し、日本の良さを見なおそう。平安と江戸時代の近隣外交に、輝かしいヒントあり。当時世界一の文化を誇っていた中国との遣隋使と遣唐使。時は隔つが、日本が先進文化・文明の吸収に真摯で貪欲であった平安時代。窓口は、九州の対馬藩宗氏に世襲されたが、周辺外交が安定していた、江戸時代の朝鮮通信使。鎖国や身分制度等マイナス面は多々あるが、国を思う時、伝統文化の醸成と戦争等から解放された独自市民社会があり、再評価と研究に値する。

不足をいえば、人の意見・欲望はきりが無い。現代の象徴マスコミの代表、テレビが証明している。斯界の権威や評論家の意見で、世の中や経済を少しも改善出来ず、平和も訪れては来ないことはお茶の間で日々明らかだ。

中韓二人の新リーダーは、報道によると現場を熟知し、勉強家。

農政の実務家で、千葉県の子 A を視察された体験がある新首相。高卒の独学で司法試験を経て、国会に進出するも孤軍奮闘・ガッツのノ次期大統領。

ノ氏は大統領選の戦略に、インターネットを取り入れたことが勝利の一大ポイントだった。日本は、e-japan 構想で革新的政策を掲げ、次代の産業浮揚を目指す。実体は大企業とその連携に有利の旧来型対策を否めない。過ぎた事は帰らない。平成の遣唐使を創設しよう。アイデアと意欲溢れる中小企業を本気で直接支援する経済対策案。裏切りの貸しはがしに躍起の銀行への捨て金を振り替えれば、その何十分の一で税収効果の期待大。

予想外の韓国経済の急回復は、大胆な金融改革とインターネット経済立国の成功。先行するコンテンツを高め、近隣の未来志向・実務型企業との自由競争と切磋琢磨で、繁栄を共有したい。

(気象情報システム株式会社 高津敏)